

平成29年10月17日
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標 題 「草刈りが楽になる！ 獣害が減る！ そして・・・」
益田市・鹿足郡の大変な草刈り作業が楽になる研修会開催

(ダイジェスト)

10月12日、益田市人権センターにおいて、石西地域農林振興協議会主催で標記研修会を開催したところ、中山間地域等直接支払制度協定集落リーダーを中心に総勢48名の出席がありました。

事例報告に始まり、除草・獣害防止から子どもの牛とのふれあい体験効果等をパネル討議。次いで市内の集落放牧現地研究と、耕種農家を対象にした濃密な集落放牧研修会となりました。

1 目的等

一般に、大多数の直接支払協定集落リーダー等には、畜産業への参入よりも「草刈り作業の負担と農作物への獣被害の軽減、耕作放棄地拡大抑制と後継者育成」に関心がより強いことから、地域の耕・畜関係担当者が協力してこの研修会を開催しました。

2 研修内容

(1) 事例報告

大田市の三久須放牧組合から、集落放牧による耕作放棄地の草刈り作業低減と農作物への獣害低減、花田植の復活、地域コミュニティの活性効果をみんなで聞きました。

(2) パネルディスカッション

以下のパネル討議により、現状の課題と集落放牧の効果を理解する内容としました。

- 益田市内で草刈りの人件費に毎年50万円を充てている協定集落代表(丸茂営農組合)
- 集落営農を開始して2年目の集落営農型法人(農事組合法人城九郎)
- 事例報告者の大田市水上町三久須放牧組合

(3) 現地事例研究

市内で集落放牧2年目継続中の牧野を視察し、意見交換をしました。

3 反応等

- 住民が協力して集落放牧に取り組んでいる事例報告に共感が集まった
- パネル討議を基に、牛を放牧する上での課題と解決策について理解された(『今よりも美しい農村環境を子どもたちに伝えたい』と地権者を説得した)との話は共感を呼んだ)
- 「放牧牛を初めて見た」「大人しいな・・・」など、新鮮な感じの印象が語られた
- 研修後のアンケートでは、「近い将来のために集落放牧を検討したい」との回答あり



4 当面の対応方針

アンケート結果により、集落リーダーへの情報提供及び話し合に対して、関係機関で連携して支援を行う予定です。

←パネル討議の様子

- 放牧を心配する意見は無かったか
- どうやって地権者の同意を得たか
- 法面を傷めない方法は
- 子どもの耕畜体験手法と効果
- ・ ・ ・について、会場参加者と一緒に考える内容としました。